

One Team Hokuetsu ⑬



5月13日(水)おはようございます。
今日は、2年生の登校日です。午前午後に分かれての登校です。



昨日は、1年5組担任弓桁先生と3年10組の副任で英語科の坂上先生の対談でした。
今日は、どなたにバトンが繋がれていくのでしょうか。

坂上 : 本日は地歴公民科の長谷川圭先生にお話を聞きたい
と思います。長谷川先生、どうぞよろしく
お願いします。

長谷川 : よろしくお願いします。

坂上 : 早速ですが今、新型コロナウイルスの影響で
自粛をしている状況です。生徒たちは自宅で
一日を過ごしているわけですが、長谷川先生は
ご自宅でどのようにお過ごしですか？もしくは
何かこれまでとは違うことを何かされていますか？



長谷川 : 最近ですか。最近料理に挑戦し始めましたね。マイブームは「牛乳寒天」です。
夜な夜な作って食べていますよ。自分好みの甘さや固さを日々研究しています。

坂上 : 牛乳寒天ですか！？おいしそうですね。私も牛乳寒天は好きなんですよ。自分で
作ろうとは思いませんが(笑)。しかしなぜ牛乳寒天を？

長谷川 : このコロナの影響で学校が休校になりました。それに伴って給食がなくなり、酪
農家の方が困っているという話を聞いて、何か自分にできることはないかと考え
た結果、そうだ、牛乳を消費しようということで「牛乳寒天」に至りました。

坂上 : すばらしい考えですね。私も何か貢献できないか考えていかなければ、と思いな
がら模索しています。ぜひ長谷川先生の牛乳寒天を食べさせていただきたいで
すね。
何かそれ以外でやっていることはありますか？

長谷川 : それ以外ですか。Gsuiteの活用法を探ったり、音楽を聴いたりすることですかね。
それから地図帳を眺めたりもしています。

坂上 : 地図を眺めることですか。何か心躍るものがありますか？

長谷川 : 「こんなところに都市が！」みたいな発見が心躍ります。水が得にくい砂漠のど真ん中に都市があるのはどうしてなのか、酸素の薄い標高の高い山中に都市があるのはどうしてなのか、などなど考えるのはとても楽しいですね。

坂上 : そうなんですね。それは長谷川先生が地歴公民科だからですか？

長谷川 : 地歴公民科だからというのがありますが、昔から好きでしたね。

坂上 : なるほど。では次の質問です。

長谷川先生が教員を目指したきっかけを教えてください。

長谷川 : ドラマチックな出会いがあった訳ではないのですが、運よく小学校・中学校・高校と素敵な先生方に恵まれ続け、憧れを抱いたことがひとつですね。それから、友人に勉強を教えた際、「わかった！」と納得し満足している顔を見て、充実感がこみ上げてきたのが記憶に残っています。その時の充実感を毎日のようにずっと味わえる職業は何か考えたときに、教員という道を選んでいました。

坂上 : 素敵な先生方に恵まれ続けてきたというのは素晴らしいことですね。地歴公民科というのは？

長谷川 : 先ほど話していた通り元々地図帳が好きだったこと、地歴公民科という教科は毎日の生活に身近なものだと思ったからでしょうか。地球上では、過酷な環境下でもさまざまな工夫をしながら適応し、生活を送っている人びとがいます。そのようなところに人間の素晴らしさを感じ、各国の地形・気候・歴史・文化などについてもっと学びたい、それを生徒と共有したいと思ったためです。

坂上 : なるほど。大学ではどのようなことをされていたのですか？

長谷川 : 大学では民俗学を専攻していました。現地に直接足を運び、古くからその集落で伝承されてきたさまざまな事柄を話し手から伺うというフィールドワークに魅力を感じたためです。また、部活動では管弦楽団でファゴットという楽器を担当し、年2回の定期演奏会や訪問演奏に向け日々練習していました。

坂上 : 私はフィールドワークというものをあまり経験が無いので少し興味があります。大学での活動が今につながっていると感じることはありますか？

長谷川 : フィールドワークを行ったことで、気持ちに変化がありましたね。今まではあま

り自らコミュニケーションをとるような性格ではなかったのですが、現地の人と関わったことで、誰かと関わりをもつことが楽しいと思えるようになりました。部活動では楽器を通して誰かとコミュニケーションを取りますし、息を合わせなければいいアンサンブルが生まれないからこそ、同じ音楽を演奏する仲間のことを知ろう、技術をどこまでも磨こうと思うようになりましたね。

坂上 : すべてが今に生きているんですね。
では最後に生徒へ何かメッセージをお願いします。

長谷川 : 「今できる精一杯を」 以前勤めていた学校で尊敬する先生が折に触れて生徒におっしゃっていました。困難な状況のなかでもできることはたくさんあるし、そういうときだからこそ取り組んだ方がいいことがある。苦しいときでも決して腐らず、その状況や条件のなかでできる限りを尽くすことが、少しでも明日を明るくする、自分の視界を広くするために、役に立つのではないかと思います。

坂上 : 「今できる精一杯を」、確かに精一杯やることって大切なことですね。私も今できることをやっていきたいと思います。
長くなりましたが、色々お話を聞くことが出来て楽しかったです。本日はありがとうございました！

長谷川 : ありがとうございました！

また、明日に続きます。お楽しみに！